

## 所管事務調査報告書

委員会名	総務委員会
調査研究テーマ	市民が誇りを持てる「環境モデル都市」「環境文化都市」の実現に向けて
テーマ設定の背景	<p>少子高齢化、人口減少社会にあって、各自治体における政策施策は、つまるところ「人口減少」をいかに食い止めるか、という課題への対応に収れんしていて、飯田市においても総合計画「いいだ未来デザイン2028」では、12の基本目標が総て直接間接的に「人口減少対策」に結びついている。</p> <p>「人口減少対策」の柱は「交流人口、関係人口の増加」を基盤とした「移住定住促進」であり、これを押し進めるには、働く場所や住まいの確保を前提に幾つかの分野におけるそれぞれの自治体が持つ強みを磨き上げ、特化させ、それをブランドとして発信していく必要がある。と同時に、そこに暮らす人々がそのブランドをしっかりと認識して誇りとしなければならず、市民の誇り（シビックプライド）の醸成が必須と言える。</p> <p>この考え方からして、総務委員会の所管において、飯田市の強みであって市民の誇り（シビックプライド）となり得るものとしては、他の自治体に先駆けていち早く環境に視点をあてた取り組みを進めてきたことと、ごみの分別に代表されるように市民の皆様の環境に対する意識の高さからも、飯田市の「環境への取り組み」は、十分にその候補になり得るものと考えられる。</p> <p>飯田市は、平成19年には将来のまちのあるべき姿として市議会の主導のもとで「環境文化都市宣言」を決議し、平成21年には地球温暖化対策に高い目標を掲げて積極的に取り組む自治体である「環境モデル都市」の指定を受けている。しかし、この環境モデル都市については、全国で23の自治体しか選ばれておらず、長野県内でも唯一指定を受けている飯田市でありながら、現状では市民の誇りとなるまでには至っておらず、また「環境文化都市宣言」に添った施策展開が十分に為されているとは言えない状況にあるものと考えている。</p> <p>そこで、この「環境モデル都市」の指定と「環境文化都市宣言」を生かし、「環境モデル都市」と「環境文化都市」の姿を明確にしつつ、その実現に向けた政策提言を行うとともに、飯田市の「環境への取り組み」が市民の誇り（シビックプライド）へとつながる道を探求することを、当委員会の調査研究のテーマとして取り組むこととした。</p>
調査研究の経過・結果	<p>〔課題整理〕</p> <p>令和元年度の議会報告会において、サブテーマを「まずは、身近な環境問題について考えてみましょう」としたことから、市民の皆様が環境に対して日頃感じておられる様々な意見が出された。市内7ブロックごととそれぞれ課題が出されたが、各ブロック共通の傾向として「ポイ捨てや不法投棄は特定の場所（人目につきにくく車が停めやすい、木や雑草が生い茂っている、耕作放棄地、川沿い、側溝など）で行われている、ポイ捨ての多くはコンビニのレジ袋に飲食料品の容器を入れたままの物が多い。」といった点がわかった。その上で、前向きな考え方として「ポイ捨てや不法投棄問題への対策については、ごみを捨てられない、捨てにくい状態にしておくことが大切」との認識が共有された。</p> <p>・参加頂いた方で、飯田市が環境モデル都市の指定を受けていることを知っていたのが4割、環境文化都市宣言を出していることを知っていたのが1割であり、総務分科会には環境への関心のある方が参加されているなかでこの結果であることを思うと、この点についてまだまだ市民に認知されていない状況がわかった。</p> <p>・環境全般について、ブロックごとにそれぞれ課題を抱えておられることがわかり、環境美化については、各地区まちづくり委員会でそれぞれに工夫して取り組まれていることが伺えた。</p> <p>議会報告会はブロック単位で行われるため、ブロックの傾向は掴めるものの、地区単位の状況や課題の把握は不十分な面は否めない。そこで、共通認識となった「ごみを捨てにくい環境づくり」をテーマに、各まちづくり委員会単位で意見交換を行うことで、地区ごとの課題の把握や独自の取り組みを知る機会とし、「誇りを持てる『環境モデル都市』『環境文化都市』の実現」への意識醸成の場としたいと考えた。</p>

〔取組経過〕

○令和元年7月 調査研究テーマ決定

議会報告会を起点とする政策サイクルの取り組みとして「市民が誇りを持てる『環境モデル都市』『環境文化都市』の実現に向けて」を調査研究のテーマとすることを決定

○令和元年7月 管外視察

飯田市と同時期に「環境モデル都市」の指定を受けた、高知県檜原町の取り組みにおいて「低炭素社会の実現に向けて、町民との絆を強める公民協働による仕組みづくり」を学ぶ。

○令和元年7月～9月 行政評価

5回の会議を経て、環境に関わる基本目標戦略も含めた行政評価を行う。

○令和元年9月 行政評価による提言

基本目標10「豊かな自然と調和し、低炭素なくらしをおくる」について、環境文化都市の実現に向けては、市民の日常での取り組みが欠かせないことから、「3Rの徹底など、市民が日常で意識して取り組めるテーマにもう少し力点をおいて、一般市民レベルでの取り組みを具体化し、結果が見えるようにしていくことで、シビックプライドの構築」に取り組むよう提言を行う。

○令和元年10月 議会報告会（市内7ブロック）

メインテーマに「市民が誇りを持てる『環境モデル都市』『環境文化都市』の実現に向けて」サブテーマを「まずは、身近な環境問題について考えてみましょう」として意見交換を行う。

○令和元年10月～12月 議会報告会で出された意見についての確認と整理分類を行った後、担当課へのヒアリング、意見交換を経てまちづくり委員会へ回答する。

○令和2年1月 各まちづくり委員会との意見交換会の実施を決定

○令和2年2月 各まちづくり委員会との意見交換会実施の依頼

○令和2年2月～3月 各まちづくり委員会との意見交換会実施

2月21日の座光寺地区を皮切りに、3月18日の下久堅地区まで17地区のまちづくり委員会と「ごみを捨てにくい環境づくり」をテーマに意見交換会を実施。

○令和2年4月 意見の取りまとめと内容別に9つの項目に整理分類

○令和2年5月 整理分類したものを担当課に伝え、見解を出してもらう

○令和2年6月 担当課の見解を受けて、論点を整理

○令和2年7月 管内視察

ポイ捨て、不法投棄の多い場所として、県道田中乱橋線峠付近、上川路大畑線、時又中村線を現地視察。

○令和2年7月～9月 担当課へのヒアリング、意見交換

まちづくり委員会との意見交換会で出された意見を整理分類、整理した論点に従って、4回にわたり委員会勉強会にて担当課へのヒアリング、意見交換を行う。

○令和2年7月～9月 行政評価

5回の会議を経て、環境に関わる基本目標戦略も含めた行政評価を行う。

○令和2年9月 行政評価による提言

基本目標10「豊かな自然と調和し、低炭素なくらしをおくる」について、委員会の調査研究テーマである「環境モデル都市」「環境文化都市」の実現を意識した取組への意欲が感じられないことから「『環境モデル都市』『環境文化都市』を実現することを明記し、そのあるべき姿をどう構築していくか、という強い意思をもって戦略を組み立てるべき」との提言を行う。

○令和2年10月 議会報告・意見交換会（市内7ブロック）

メインテーマは前年と同様「市民が誇りを持てる『環境モデル都市』『環境文化都市』の実現に向けて」とし、まちづくり委員会との意見交換を経てサブテーマを「環境について大人も子どもも互いに学び合い、共に実践する飯田市に」として意見交換を行う。

○令和2年10月～12月 議会報告会で出された意見についての確認と整理分

類を行った後、担当課へのヒアリング、意見交換を経てまちづくり委員会へ回答する。

○令和2年11月～12月 総務委員会協議会勉強会

「21' 飯田環境プラン第5次改訂版(案)」 「飯田市一般廃棄物(ごみ)処理計画(案)」 「飯田市地球温暖化対策実行計画(第3次飯田市環境モデル都市行動計画(案))」 他について、担当課よりの説明と意見交換を行う。

○令和2年12月 一般質問における委員会代表質問的な質問

市長が代わり「新環境文化都市」創造プランを掲げていることから、定例会の一般質問において、総務委員会の調査研究テーマとの整合性の確認も含めて総括的な質問を行い、市長の見解を質した。

〔調査研究結果〕

・まちづくり委員会との意見交換会では、環境に対する各地区独自の取り組み、ごみを捨てにくい環境づくり、ポイ捨て不法投棄、ごみ出し集積所、分別、野生動物関連などの身近な問題から、再生可能エネルギーをはじめとした地球温暖化対策など環境に関して幅広いご意見を頂くことができた。意見交換会を通じて出された意見や質問項目等については、内容別に9つの項目に分類し論点を整理して担当課との協議を行った。その結果について「環境課との勉強会における意見交換の状況」として、令和2年度の議会報告・意見交換会において回答した。

・令和2年度の議会報告・意見交換会におけるメインテーマは前年と同様に設定したが、まちづくり委員会との意見交換を経てサブテーマを「環境について大人も子どもも互いに学び合い、共に実践する飯田市に」とした。そこでは「市民の間に『ごみをどこの集積所に出してもよい』という誤った認識が広まっている」といった意見があり、全ブロックで同様の状態にあることが確認されたため、担当課に申し入れて改めて市の公式見解を各まちづくり委員会に回答した。

・委員会の調査研究のテーマである「市民が誇りを持てる『環境モデル都市』『環境文化都市』の実現に向けて」については、委員会からの政策提言に沿って、第5次飯田環境プランにおいて、次の4年間で「環境文化都市」の「再構築」の期間として位置づけ、「環境の飯田市」として特徴づけてきた長所を、より市民全体のものとする「土壌づくり」の期間と明記した。

また、ともすると環境への取り組みの力点が事業者に向けられがちだったが、市民・地域・事業者の取組事例が具体的に示され、市民が日常で意識して取り組めるテーマにも取り組みの幅が広がった。

また、議会報告会、まちづくり委員会との意見交換会を通じては、「環境文化都市」を実現するためのキーワードとして「好事例の横展開」「成果や数値の見える化」「子ども達の取り組み」の3つを見出している。いずれも市民の意識をどう高めていくか、に関わる事柄で、このキーワードを基に委員会としての政策提案を行うこととする。